

公益社団法人浦安青年会議所
2018年度理事長 大塚 庄一郎

スローガン「創造【CREATE】～新しい価値の創造による新しい浦安の創造～」

【はじめに】

2018年度、「創造【CREATE】～新しい価値の創造による新しい浦安の創造～」のスローガンを掲げ、一年間の運動を展開して参りました。「新しい価値の創造」を行うためには、今いる自身の環境を見つめ、この地域で求められることを探求することが必須であり、理事・役員の皆様をはじめ全てのメンバーが、事業構築をするにあたり浦安を研究して頂いた1年であったと思います。また、メンバー数が減少する中、5つの委員会を設置したために、非常に少ないフォロアメンバーの中で様々な事業を行って頂きました。そのような中で計画していた全ての事業を完結できたのは、5人の委員長の皆さんの頑張りであったと思います。そして、それを支えて頂いた副理事長や室長、副委員長や委員会メンバーにも最大限の賛辞を送りたいと思います。

【規律と共助の精神で結ばれた組織づくり】

青年会議所運動の中で、最も重要なことは規律と共助の精神で結ばれた組織づくりであると思います。このことは、所信を作成した時から、理事長の職を2019年度に繋いだ現在も変わりません。しかしながら、年間を通じて理事会・例会・委員会での出席率の低さや事前準備の不足など、規律と共助の精神で結ばれた組織とは異なる面が多くみられました。自己成長を求め、青年会議所運動を行うのであれば、規律を重んじ、自らを律する必要があると考えます。2019年度はより良い組織を目指し、活動をして頂ければと思います。

会員同士・委員会同士の相互理解を深めるために、交流委員会を設置し、様々な交流事業を行って頂きました。8月には例会としての交流事業『勝ち残ろう！浦安J C格付けクイズ』を開催しました。チームを組んでのクイズ大会と言うことで、チーム内での意思疎通をはかる事業となりました。また、9月には『ストリートラグビー浦安大会』を開催しました。こちらもチームを組み、一般参加者をいかにして楽しんでもらうかを試行錯誤し、連携を取ることで、会員同士の繋がり、さらには事業への協力団体や一般市民との繋がりを強固とすることができました。

さらに、強固な組織づくりの一環として、近年総務委員長が兼務していた事務局長の職を分離し、全ての委員会からの出向者による事務局を設置しました。この事務局では主に対外

的な広報に注力してもらったものでした。しかし、委員会と事務局を兼務していたためか、うまく機能せず、1年間を経過してしまった印象を持っております。公益社団法人として、対外事業を数多く行う団体のため、広報は必須であり、事業の成功のカギになるものです。今後も浦安青年会議所として、どの様な広報活動が有効で、どの様な体制で臨むべきかをしっかりと見極める必要があります。

【スポーツによる青少年育成】

所信に記した通り、スポーツは、心身の健全な発達を促し、自己責任や克己心、道徳心を身に付けることができるとともに、仲間や指導者などとの交流を通じ、コミュニケーション能力や他者への思いやりを育む重要な役割を果たします。このスポーツによる青少年育成として、5月に『わんぱく相撲浦安場所』を開催し、10月に『わんぱくラグビー浦安大会』を開催いたしました。『わんぱく相撲浦安場所』は継続事業であるものの、毎回大勢の参加者が訪れるため、設営に時間と労力がかかる事業です。しかし、例年通りに全メンバーが一致団結し、大きな漏れもなくしっかりと設営して頂きました。内容も、相手のことを考えそして思いやり、さらに礼節の心を育むよう事業構築がされておりました。『わんぱくラグビー浦安大会』は男女や学年を全てミックスし、初対面の子ども同士でチームを組み、実際にラグビーを行うものでした。最初の練習などでは、多少ぎこちなく見えたが、練習が進につれ、また試合を行うたびに、チーム内での団結が深まっていく過程を見ることができました。両事業を通じてスポーツの持つ力や、スポーツが青少年育成には欠かすことができないものであることを改めて実感しました。また、両事業ともにコンタクトのあるスポーツでしたが、大きな事故や怪我がなく終えることができました。こちらも担当委員会を中心として、当日運営に関わった皆様の努力の賜物であると思います。

【新たなコミュニティの創造】

「浦安青年会議所が核となる、地域を巻き込んだコミュニティを創造したい」これは私が理事長職に手をあげ、所信を作成する際に一番初めに考えたことです。この思いは、私が2017年度に公益社団法人日本青年会議所への出向したことが大きく寄与しています。全国の青年会議所メンバーと知り合い、まちを訪れた際に、青年会議所がその地域を巻き込み、核となって活動している光景を何度も目の当たりにして、私たちの地域でも実践してみようと考えたためです。実際に事業構築をしていく中で、様々な問題にもあたりましたが、最終的には次代につながる事業が開催できたと考えます。

まず、4月に『「学んで実践！今日からあなたもアクティブラーナー！」～子どもたちを幸せな人生に導く学び方とは～』を開催いたしました。前文部科学大臣下村博文氏の講演と浦安市教育長鈴木忠吉氏、一般社団法人リテラシー・ラボ千葉偉才也氏を加えた3名でのパネルディスカッションを行い、アクティブラーニングの現状から未来の教育に至るまで様々なテーマを話題にして頂きました。当日は165名の皆様に来場して頂き、難しいテー

マではありましたが、しっかりと学び、アクティブラーニングの必要性について認識して頂きました。そして、10月には『「広げよう！コミュニティの和」～わがまち子ども食堂～』を開催いたしました。浦安高校の生徒がプロデュースする子ども食堂で、当日はベシニア浦安の皆様にも参加して頂き、単なる子ども食堂ではなく、あらゆる年代が交流する事業となりました。今後、私たちを含め参加して頂いた皆様がこのつながりを大切に、次代につながるコミュニティとなっていくことを願います。

【人財の創造】

2018年度の方針として、拡大と研修を並行して行うことにしました。そこには、青年会議所が自己成長の場として、リーダー育成の場としての優位性を対外に向けて発信し、実践することで、より多くの人財を確保できると考えたからです。3月に『これからの社会で活躍するリーダーに必要な条件とは』を元アップル日本法人社長である山元賢治氏をお招きして開催いたしました。対象者も入会資格のある30代までとしましたが、広く広報を行うことによって早々に定員の100名に達し、当日も大勢の来場者で埋めることができました。山元氏の熱い講演によって、来場者そしてメンバーも多くの気付きを得ることができました。また、事業内容および一般来場者の多さから、本事業が公益社団法人日本青年会議所関東地区千葉ブロック協議会において褒賞を受賞することができました。思いもよらぬ受賞でしたので、驚いたと共に心からうれしいと思う受賞となりました。さらに、この事業をさらに発展させるため、6月に『支援型リーダーになるための実践セミナー～今こそ高める人間力～』を開催いたしました。この事業では株式会社ルネッサンス・アイズ代表取締役社長である松尾一也氏をお招きしての講演と担当委員会が主体となるグループワークを行いました。講演とグループワークを通じて、旧来型のリーダー像から今現在求められる支援型リーダーの基礎を学び、自身の会社、立場に応じたリーダー像の構築を行うことができました。両事業には多くの一般参加者が来場し、これまで接点の持つことのなかった業種や業界の方々とも接点を持つことができました。私の力不足からこれらの事業から直接入会につながった方は居ませんでしたが、しっかりと引継ぎ、2019年度以降も引き続き拡大を行っていかうと考えます。

【さいごに】

2018年度、理事役員をはじめとするメンバーの皆さん、関係諸団体の皆様のご支援、ご協力に支えられて1年間を走りぬくことができました。心より感謝御礼申し上げます。私自身、理事長と言う職を受けることによって、これまでとは異なる考え方、物事の見方をすることができました。単年度制という特色を生かし、その年その年での役割を自分自身で考え、吸収し、常に上を目指し成長して頂ければと思います。また、2019年度は私にとっては青年会議所最後の年となります。理事長や様々な役職を通して経験してきたことを次代に引継ぎ、浦安青年会議所の更なる発展につながるよう、最終最後まで精一杯活動

していきたいと思います。渡邊賢祐理事長による2019年度の浦安青年会議所がより魅力的な組織になり、創立40周年へとつながることを祈念申し上げ、2018年度事業報告とさせていただきます。繰り返しになりますが、1年間関わった全ての皆様に感謝御礼申し上げます。誠にありがとうございました。